

（１）本年度のN I E活動の概要

本校において、新聞を活用した授業は「総合的な探究の時間」における「課題研究」のみであり、ほとんどの教科では新聞を活用していないのが現状である。本年度はN I E研究指定校1年目ということで、手探りではあったが、教科学習における新聞の活用と、生徒たちが日頃から新聞に親しむということを目標に活動を進めた。

（２）本年度のN I E活動の取り組み状況（４月時点）

本校は全校生徒715人、6クラス（うち1クラスが国際教養科）×3学年規模の学校である。卒業後の進路は進学率が高く、4年制大学進学を希望する生徒が多い。

本年度は上記の目標に基づき、2学年文系日本史選択者を対象に「SCRAP BOOK」の活用と研究授業の実施、全校生徒、教員に向けた新聞閲覧コーナーを設置した。

（３）N I E活動の狙い（育てたい力）

国際化、情報化が急速に進む現代社会において、学校教育も従来の知識中心主義ではなく、生徒の主体性や探究的に学ぶ姿勢を育む教育にシフトしつつある。そこで本年度はN I Eの活動を通して、次のような力を育てていく。

- ・社会における課題を発見する力
- ・課題に関する正確な知識を身につけ、思考し、判断し、解決する力

（４）全校での取り組み

〈新聞閲覧コーナーの設置〉

朝日新聞・毎日新聞・読売新聞・日本経済新聞・産経新聞・信濃毎日新聞・中日新聞を9月から届けていただき、進路室前に新聞閲覧コーナーを設置した。

進路室前に設置することで、特に3年生は小論文・面接対策のために利用する姿が多く見られた。



(5) 公開授業などの活動内容

①日時：令和2年12月14日（月）

②学年・組：第2学年 文1講座 計41人

③場所：情報教室

④単元名：日本史 A 特別編 「コロナ時代を生きる」

⑤単元の目標

- ・社会情勢について興味・関心をもち、特に新型コロナウイルスの感染が拡大する社会で、
どういった問題が起こっているか、またこれから自分はどのように生きていくかを考えることができる。〔関心・意欲・態度〕
- ・新聞を読む習慣をつけ、自分に必要な情報を収集することができる。〔技能〕
- ・新型コロナウイルスの感染拡大が社会をどう変化させたか、また、このような状況の中で自分自身の考え方や気持ちがどう変化していったかを振り返ることができる。〔思考・判断・表現〕
- ・新聞を読むことで社会情勢を理解し、そこから知識を習得することができる。〔知識・理解〕

⑥単元の構想

・教材観

本授業は日本史 A 特別編としており、通常授業とは異なった位置づけである。現在、新型コロナウイルスの感染拡大は収束の兆しがなく、特に高校生にとっては昨年度末からの休校、文化祭の延期・縮小、修学旅行の中止など、今まで考えられなかったようなことばかりが起きており、まさに歴史の当事者になっている。そこで改めて現状を分析・考察し、生徒たちがこれからの「コロナ時代」をどう生きるかを主体的に考えるために本授業を設定した。

また、今回は「新聞を活用した学習（N I E）」の一貫であり、新聞を教材として使い記事を手がかりに生徒に考察を深めていくよう指導する。

・生徒観

男子 14 人、女子 27 人、計 41 人。落ち着いた雰囲気 of 講座である。日本史 A の授業では毎時間、問いをたて考察する時間を設けており、授業中は比較的静かであるが、1 人 1 人が事象を分析・考察したことをまとめる習慣はついている。また、休校明けの 6 月から本講座の生徒は新聞記事のスクラップを続けており、特に新型コロナウイルスに関する記事を中心にまとめてきた。

・指導観

本授業は今現在起こっていることを取り扱うため、生徒は通常授業に比べると身近に考えられる内容である。しかし、身近であるからこそ主観的になってしまうことも考えら

れるため、新聞記事をもとに情報を正しく理解し、他者の意見に触れることで、物事を冷静に分析・判断できるよう指導していく。

⑦本時の計画

- ・ 本時の題目・・・「コロナ時代を生きる」
- ・ 本時の展開

段階	学習内容	学習活動（予想される生徒の反応）	指導上の留意点・支援・評価	分	準備物・資料等
導入	1. コロナ禍の社会を時系列に整理する（新聞記事の並べ替え）		・机ごとにグループを作り、グループで一つの答えを出すよう指導する	10 分	
展開	2. 新聞記事を基に、当時自分が何を感じていたか、考えていたかを整理する。	・ 新型コロナウイルスの感染拡大⇒最初は他人事だったが、感染が拡大し、県内でも感染者が出ると恐怖に感じるようになった。	・ 1 で使った資料（新聞記事）を使う。 ・ その時の感情をより具体的に説明できるよう、机間巡視しながらサポートする。	10 分	
	3. コロナ禍の社会で、自分自身が変わったことをまとめる。	・ 感染したくない理由⇒感染自体ではなく、誹謗中傷が怖くなっていった。	・ 黒板に出された意見を掲示しながら、考察を促す。	5 分	
	4. 鹿児島県与論島と島根県を取り上げた新聞記事とをそれぞれピックアップする。	・ 新聞を読み、内容を理解する。	・ 新聞記事をしっかりと読むよう、時間を十分に取る。	5 分	
	5. 与論島や島根県の記事から、なぜ誹謗中傷や差別が起きてしまうのか、こうしたことが起きないためには何が必要かを考える。			10 分	
まとめ	6. 「コロナ時代」をどう生きていきたいかをまとめる。		・ レポート形式でまとめさせる。	15 分	

配布プリント（生徒へはデータで配布）

評価

	5～3点	2～1点	0点
問1 (1)	新聞記事を読み、その内容のポイントを見つけ出し、理解することができる。	新聞記事を読むことはできるが、その内容のポイントを見つけ出すことができない。	新聞記事を読もうとせず、内容も理解しようとししない。
問1 (2)	グループの話し合いに参加し、協力して答えを導こうとする姿勢が見られる。	グループの話し合いに参加するが、協力的な姿勢はみられない。	グループの話し合いに参加せず、協力的ではない。
問2	個人的な体験や知識から生まれるものの見方や考え方を文章にし、他者に伝えることができる。	個人的な体験や知識から生まれるものの見方や考え方はあるが、文章にして他者に伝えることができない。	個人的な体験や知識から、ものの見方や考え方をいいたそうとししない。
問3	問いの内容を理解し、新聞から必要な情報を読み取り、自分の考えやその理由を文章にすることができる。	問いの内容を理解しているが、新聞から必要な情報を読み取ることができず、自分の考えやその理由を文章にすることができない。	問いの内容を理解しようとしせず、自分の考えやその理由も文章にししない。
問4	様々な見方、考え方があることを理解した上で、問いを分析・考察し文章にすることができる。	様々な見方、考え方があることが理解できているが、問いについて分析・考察ができていない。	様々な見方、考え方があることを理解したり、問いについて分析・考察しようとししない。

問1 新型コロナウイルスに関する新聞記事を読み、時系列に並べてみよう。

- (1) 新聞記事を読み、ポイントとなる点を見つけよう。
- (2) グループで話し合い、答えを出そう。

問2 新聞記事を読み、当時の自分を振り返ろう。

- (1) 新型コロナウイルスに対する自分の考え方や感じ方をまとめよう。
- (2) 時間の経過とともに、(1)に変化があったか、あった場合はどのように変化したのか、理由も含めて具体的に説明してみよう。

問3 二つの新聞記事を読み、なぜ誹謗中傷や差別が起こってしまうのか、問2を踏まえて考察してみよう。

問4 新型コロナウイルスの感染が拡大する中、感染者への誹謗中傷や差別、ネットでの誤情報の拡散が問題となっている。今日の授業を踏まえて、今後私たちは「新型コロナウイルス」とどう生きていくべきか、自分の考えをまとめましょう。

(6) 生徒の反応

N I E の研究にあたって生徒は新聞記事のスクラップを続けており、新型コロナウイルスに関する記事を中心にまとめてきた。本授業では、まず新聞記事を時系列に並べ替えることで、コロナ禍における社会情勢の変化を確認させた。生徒たちはその新聞記事をもとに、自分自身の考えの変化を話し合った。

新聞記事を時系列に並べる作業では「クルーズ船での感染はいつだったかな」「オリンピックの延期とマスクの配布はどちらが先だったかな」などといった発言が見られた。時系列に整理した上で、生徒たちはその時々で自分自身が何を考えていたのか話し合い、「最初は都会の人たちは大変だなと思っていたが、学校が休校になったり、自分が住んでいる地域の近くで陽性者が出たりすると、一気に身近に感じ不安になった」や、「部活ができなかったり、修学旅行が中止になったりして悲しかった」、「最初は自分には関係ないと思っていたが、地方でも感染者が増加してくると、県外ナンバーの車を見ると不安になった」などの意見が出された。また、「なぜ、感染した人に対して差別や誹謗中傷をするのか。悪いのはウイルス自体ではないのか」という差別や誹謗中傷に対する意見も出された。

次に、感染者への誹謗中傷や誤情報の拡散に焦点を当て、なぜこういったことが起きるのかを考察した。多くの生徒から、今後の見通しが持てない中で、漠然とした不安が感染者への誹謗中傷や誤情報の拡散に繋がってしまうのではという意見が出された。

最後に、クラスターが発生したにも関わらず誹謗中傷がなく日常に戻った鹿児島県与論島の記事（『信濃毎日新聞』2020.9.6 朝刊）を示し、感染者への誹謗中傷や差別、ネットでの誤情報の拡散が問題となっている中で、私たちは今後どう生きていくべきかを考えレポートにまとめた。ある生徒は、「この授業を通して自分にも少なからず差別につながるような感情があることに気づいた。これからは物事を冷静に判断したい。また、いつ、誰が新型コロナウイルスに感染するか分からないので、感染対策をしっかりと行い、感染してしまった人には与論島の人々のように思いやりをもった行動をしたい」とまとめていた。

(7) 成果と課題

生徒たちが日ごろから新聞に親しむという点については、「SCRAP BOOK」の作成を通じて新聞を読む習慣ができ、記事を考察し自分の考えを深めていく生徒が多くみられた。今回は「新型コロナウイルス」に関連する記事と限定したが、直接的な関連がない記事でも、新型コロナウイルスの影響があるのではないかという独自の考察をした生徒もいた。今後は、生徒がこういった活動を継続して行えるような環境を整備していきたい。

また、公開授業では新型コロナウイルスの感染拡大という身近な話題を取り上げたので、生徒一人一人が真剣に考察をしている様子が伺えたが、55分間の授業時間に対して盛り沢山な内容になってしまった。また日本史Aの授業として、例えば奈良時代の鎮護国家の思想や東大寺大仏建立などに関連させるなど、感染症と人類の歴史を関連づけて考察することも、現在の事象を歴史の視点から捉える点で必要であったと考える。